

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当の基準日	期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
公 告 方 法	電子公告 電子公告掲載 URL http://www.kissei.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。
上 場 取 引 所	東京証券取引所 市場第1部

【お知らせ】

ご注意

- 株主様の住所変更、配当金の振込のご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



第 66 期 報告書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)



天と地の間、雲湧く穂高連峰

目次

株主の皆様へ	P 2
業績ハイライト（連結・個別）	P 3~4
事業の概況（連結）	P 5~6
研究開発の状況	P 7
トピックス	P 8
財務諸表（連結）	P 9~10
財務諸表（個別）	P 11
製商品の紹介	P 12
株式の状況	P 13
会社の概要	P 14



橘の花

「キッセイ」の由来

「キッセイ」は1946年創立。当時は、初代社長・雨森正五郎の家紋である“橘”を冠した株式会社 橘生化学研究所としてスタートしました。翌年橘生薬品工業株式会社と改称され、1964年に現社名の「キッセイ薬品工業株式会社」となりました。

株主の皆様へ

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第66期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の事業の概況をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

この度の東日本大震災等により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

当期の業績は、医薬品事業におきまして薬価基準引下げの影響などにより既存製商品の売上は減少しましたものの、ユリーフ（一般名：シロドシン）、グルファスト（一般名：ミチグリニド）、サラジェンからなる新薬3製品の売上伸長、昨年5月より新発売しましたエポエチナルファBS注JCRの寄与、更には技術料売上が増加しましたこと、その他の事業の売上も増加しましたことから売上高は前期比3.6%増となりました。利益面では、売上原価率の低減がありました一方で、積極的な研究開発投資などによる販売費及び一般管理費の大幅な増加、株式市場低迷による営業外費用や特別損失での有価証券評価損の計上などにより、営業利益は前期比1.8%減、経常利益は同3.9%減、当期純利益は同8.4%減となりました。研究開発面では、プロトックス社から前立腺肥大症治療薬、ビフォーファーマ社から透析時高リン血症治療薬を導入し研究開発パイプラインの充実を図るとともに、糖尿病治療薬KMV-0207（ミチグリニドとボグリボースの配合剤）の承認申請を行っております。

当社は本年4月より、新中期経営計画「CORE3」をスタートいたしました。本計画は、創業研究開発型企業としての安定成長を遂げるため、「コアビジネスの拡大と発展、そして妥協なき変革」をスローガンとして、前中期経営計画「CHANGING PLAN」によって構築した新薬の国内営業基盤と、シロドシン並びにミチグリニドのグローバル展開体制を足掛かりに売上高を拡大し、積極的な研究開発・アライアンス投資を継続的に支える収益構造を確立することを目指すものです。

なお、本年5月10日開催の取締役会において、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を目的に、取得株数を280万株（上限）、取得価額総額を50億円（上限）とする自己株式の取得を決議いたしました。

今期は、電力供給不足や製造業のサプライチェーン問題など東日本大震災の影響が懸念され、更に復興財源確保のための増税や社会保障費の抑制策等が本格的に議論、実施されるものと予想されます。当社は、創業研究開発型企業として生き残るべく新中期経営計画「CORE3」を着実に推進するとともに、CSR経営にも積極的に取り組み、企業価値向上に努めてまいります。

今後とも、株主の皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

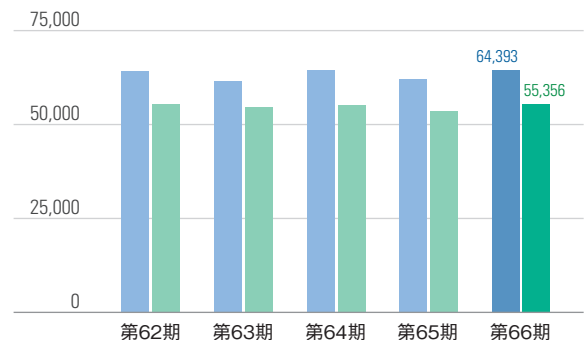


代表取締役社長 神津陸雄

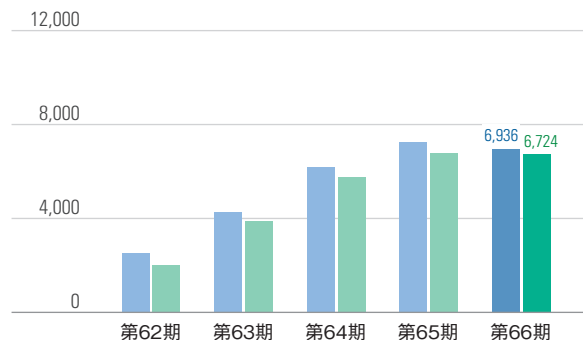
業績ハイライト（連結・個別）

■ 連結 ■ 個別

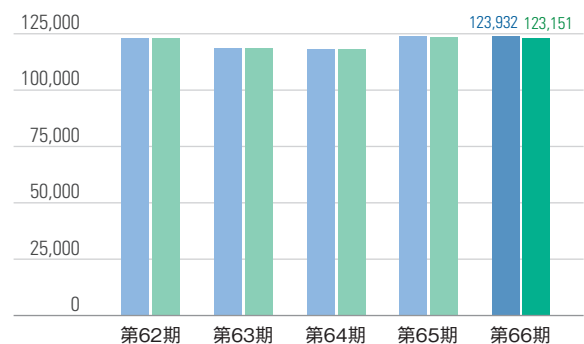
●売上高 (百万円)



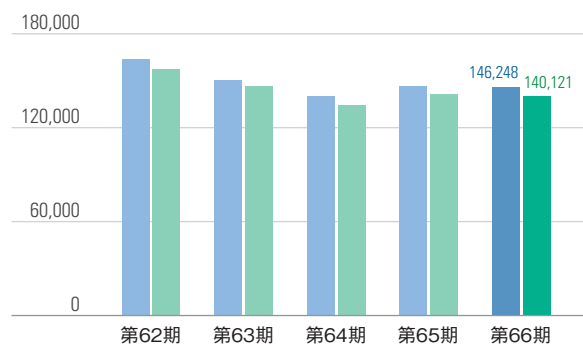
●経常利益 (百万円)



●純資産額 (百万円)



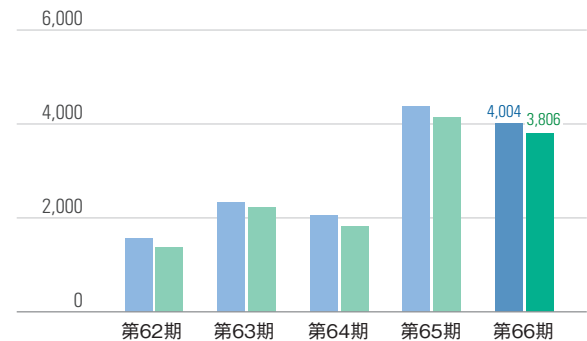
●総資産額 (百万円)



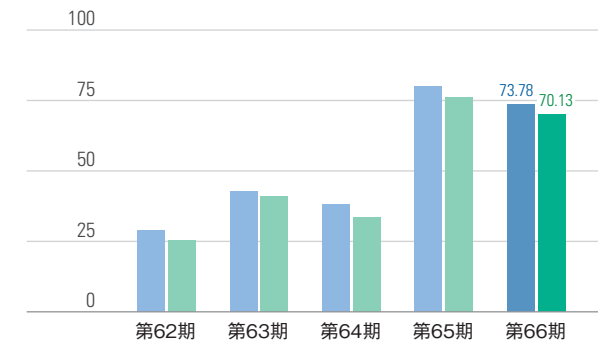
連結		第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
売上高	(百万円)	64,215	61,480	64,535	62,178	64,393
経常利益	(百万円)	2,520	4,257	6,174	7,221	6,936
当期純利益	(百万円)	1,570	2,325	2,061	4,371	4,004
純資産額	(百万円)	123,232	118,775	118,415	124,221	123,932
総資産額	(百万円)	163,583	150,566	140,181	147,022	146,248
1株当たり当期純利益	(円)	28.93	42.86	37.98	80.52	73.78
1株当たり純資産額	(円)	2,268.85	2,186.21	2,177.96	2,285.37	2,280.04
自己資本比率	(%)	75.3	78.8	84.4	84.4	84.6
自己資本当期純利益率	(%)	1.3	1.9	1.7	3.6	3.2

業績ハイライト（連結・個別）

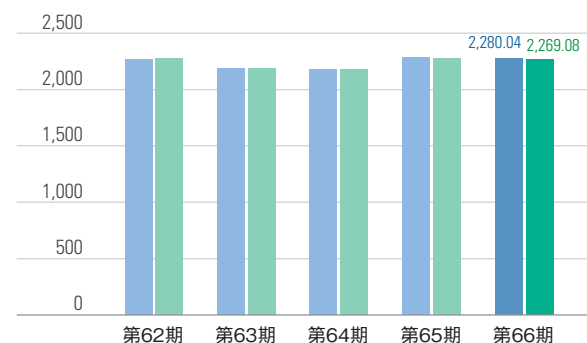
●当期純利益 (百万円)



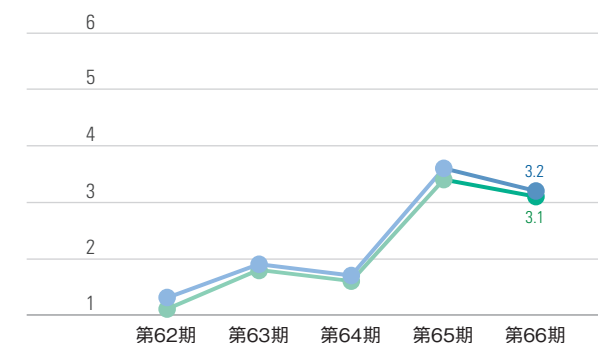
●1株当たり当期純利益 (円)



●1株当たり純資産額 (円)



●自己資本当期純利益率 (ROE) (%)



個別		第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
売上高	(百万円)	55,579	54,767	55,295	53,709	55,356
経常利益	(百万円)	2,011	3,877	5,777	6,759	6,724
当期純利益	(百万円)	1,370	2,231	1,829	4,141	3,806
純資産額	(百万円)	123,326	118,684	118,086	123,642	123,151
総資産額	(百万円)	157,613	146,368	134,514	141,533	140,121
1株当たり当期純利益	(円)	25.26	41.13	33.71	76.30	70.13
1株当たり純資産額	(円)	2,273.00	2,187.37	2,174.96	2,278.06	2,269.08
自己資本比率	(%)	78.2	81.1	87.8	87.4	87.9
自己資本当期純利益率	(%)	1.1	1.8	1.6	3.4	3.1
資本金	(百万円)	24,221	24,271	24,356	24,356	24,356
発行済株式総数	(株)	56,796,454	56,838,791	56,911,185	56,911,185	56,911,185
1株当たり配当金	(円)	28	28	30	32	34
		(うち記念配当: 4)		(うち記念配当: 2)		

事業の概況（連結）

当期の概要

3月11日に発生しました東日本大震災により被災された皆様に対しまして謹んでお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。なお、当社の生産拠点は松本工場（長野県松本市）及び塩尻工場（同塩尻市）であり通常通り操業しておりますほか、対象地域の営業拠点におけます大きな物的被害等はありませんでした。

当連結会計年度におけるわが国経済は、一時的には景気回復を牽引してきた輸出の伸びの鈍化や円高の進展を背景とした停滞局面にありましたものの、海外景気の持ち直しに伴い緩やかな改善局面を迎えつつありました。然しながら、この度の大震災は直接的な被害にとどまらず製造業のサプライチェーンに深刻な影響をもたらしましたほか、電力供給不足が及ぼす今後の経済活動への悪影響なども懸念されています。

医薬品業界におきましては、後発品使用促進策等の医療費抑制策の進展に加え、平成22年4月に実施されました薬価改定におきまして、新薬創出・適応外薬解消等促進加算が試行的に導入される一方で長期取載医薬品の追加引下げなどが実施されるなど、引き続き厳しい経営環境のもとに推移しております。また、情報サービス業界、物品販売業界、建設業界におきましては、企業におけるIT投資及び設備投資の抑制や個人消費の低迷など、内需の停滞を背景に依然として厳しい競争環境下にありました。

このような状況下、当連結会計年度の業績は以下のとおりとなりました。

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	増減率 (%)
売上高 (百万円)	62,178	64,393	3.6
営業利益 (百万円)	6,584	6,463	△1.8
経常利益 (百万円)	7,221	6,936	△3.9
当期純利益 (百万円)	4,371	4,004	△8.4

医薬品事業の売上高は、553億5千4百万円（前連結会計年度比3.1%増）となりました。薬価基準引下げの影響などにより既存製商品の売上高が減少いたしました。前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ユリーフ[®]」、糖尿病治療薬「グルファスト[®]」及び口腔乾燥症状改善薬「サラジェン[®]」が引き続き伸びましたほか、技術料売上が増加いたしました。また、日本ケミカルリサーチ株式会社と共同開発を行いました腎性貧血治療薬「エボエチナルファBS注JCR」を平成22年5月に新発売いたしました。このほか、欧州における前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬シロドシン（一般名、日本製品名ユリーフ）の技術導出先でありますレコルダッチ社（イタリア）では、平成22年6月にドイツにおいて製品名「UROREC[®]」として新発売し、その後、順次に欧州各国において発売及び発売に向けた準備を進めております。また、中国におきましては、平成22年9月に糖尿病治療薬ミチグリニド（一般名、日本製品名グルファスト）が独占的開発・販売権を供与いたしておりますエーザイ株式会社により新発売されました。

その他の事業の売上高は、90億3千9百万円（前連結会計年度比6.7%増）となりました。情報サービス業、物品販売業で減収となりましたが、建設請負業におきまして増収となりました。

利益面では、医薬品事業において増収や売上原価率の低減などの増益要因がありました一方で、研究開発投資を積極的に行い販売費及び一般管理費が大幅に増加いたしましたこと、並びにその他の事業において増収となりましたものの、売上原価率の上昇や販売費及び一般管理費の増加などがありましたことにより営業利益が減少いたしました。また、投資有価証券評価損の計上及び資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う影響額の計上などの減益要因がありました。

研究開発の状況につきましては、平成22年4月にプロトックス社（カナダ）が開発中の前立腺肥大症治療薬（遺伝子組換え型プロアエロリシン、開発番号PRX302）につきまして、国内での独占的開発・販売権を取得する契約を締結いたしましたほか、同月に糖尿病治療薬（ミチグリニドとボグリボースとの配合剤、開発番号KMV-0207）の承認申請を行いました。KMV-0207につきましては本年4月22日付けで製造販売承認を取得いたしましたことから、薬価基準取載後に製品名「グルベス[®]配合錠」として販売を開始する準備を進めております。また、平成22年9月にはビフォーファーマ社（スイス）が開発中の透析時高リン血症治療薬（酸化水酸化鉄製剤、開発番号PA21）につきまして、国内での独占的開発・

販売権を取得する契約を締結いたしました。これらの導入いたしましたテーマを含め、各テーマの研究開発を推進しております。なお、第Ⅲ相臨床試験を実施しておりました過活動膀胱治療薬（開発番号KUC-7483）につきましては、試験成績を検討いたしました結果、開発を中止いたしました。

次期の見通し

国内医薬品市場におきましては、後発品使用促進策をはじめとする医療費抑制策が強力に推進され、市場競争は益々激化しております。

その他の事業におきましても、持ち直しつつあるかに見えた景気が東日本大震災の影響により再び不透明感が強まりましたことなどにより、厳しい業界環境が継続するものと予想されます。

このような情勢の中で当グループは、グループとしての相乗効果が発揮できる経営体質の確立を目指し、また、これまでの研究開発などへの投資の成果を結実させるとともに、次なる成果への投資に向け、収益性の改善に取り組んでまいります。現時点での平成24年3月期の連結業績見通しにつきましては、以下のとおりです。

連結業績見通し

	24年3月期見通し	23年3月期実績	対前期増減額	増減率 (%)
売上高 (百万円)	64,600	64,393	207	0.3
営業利益 (百万円)	6,500	6,463	37	0.6
経常利益 (百万円)	7,200	6,936	264	3.8
当期純利益 (百万円)	4,600	4,004	596	14.9

・売上高

医薬品事業におきましては、技術料売上の減少を見込んでおりますが、期中に発売予定のグルベスを含め、引き続き新製品の育成を図り微増収の計画です。その他の事業におきましては、経営環境の悪化を背景に減収を見込んでおります。

・利益

医薬品事業におきましては、引き続き積極的に研究開発費や製品育成のための経費を投入いたしますが、増収と売上原価率の低減による売上総利益の増益により、営業利益、経常利益、当期純利益はそれぞれ増益を見込んでおります。その他の事業におきましては、減収による減益を見込んでおります。なお、営業外損益ならびに特別損益におきましては特別なものは見込んでおりません。

対処すべき課題

製薬業界を取り巻く経営環境は激変の最中にあります。日米欧における医療用医薬品市場においては、経済の低迷と医療費の増大に対して薬剤費抑制策が推し進められ、市場競争が激化している一方、中国、インドをはじめとする新興市場では医療アクセスの改善などにより、急速な成長が見込まれています。また、新薬シーズの枯渇、研究開発から承認に至る規則の厳格化などにより新薬開発競争はますます熾烈化を極めております。このような中、販路の拡大や研究開発技術・テーマの確保を目的として、製薬企業間の合併・買収が活発化しています。

このような経営環境下において、存在価値・意義のある創業研究開発型企業として更なる成長のステージに進むべく、①国内市場における確固たるマーケティング基盤の構築、②グローバル市場への進出と拡大、③新薬創出と開発の加速、④会社機能の強化・補完、効率化のための戦略的なアライアンスの推進、⑤グループ各社の事業構造改革とシナジー創出によるグループ経営基盤の強化、を対処すべき課題として認識し、取り組んでまいります。

研究開発の状況

経営ビジョンである「世界の人の健康に貢献できる独創的な医薬品を開発し提供する創業研究開発型企業を目指す」の実現のため、研究開発におけるコア領域を定め、積極的に研究開発投資を行うことにより、新薬創出と開発の加速を図っております。また、グローバル市場への進出と拡大を目指し、創製品の技術導出による国際展開を推進しております。

● 自社

(平成23年5月現在)

開発段階	製品名/ 一般名/開発番号	開発区分	予想される適応症	主な作用等	備考
承認取得	グルベス®配合錠/ KMV-0207	自社開発	2型糖尿病	速効・短時間型インスリン分泌促進作用 + α-グルコシターゼ阻害作用	ミチグリニド・ ボグリボース 配合剤
第Ⅲ相	グルファスト®/ ミチグリニド	創製品	2型糖尿病	速効・短時間型インスリン分泌促進作用	効能追加※1
第Ⅱ相	KPS-0373	導入品/塩野義製薬	脊髄小脳変性症	甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン (TRH) 作用	
	シロドシン/ KSO-0400	創製品	前立腺肥大症に伴う排尿障害	α1A受容体拮抗作用	1日1回投与
	オザグレル/ KCT-0809	テिका製薬共同開発	ドライアイ	角結膜上皮障害修復作用	
第Ⅰ/Ⅱ相	YS110	導入品/ワイズ・エー・シー、 東京大学、科学技術振興機構	悪性中皮腫	抗CD26ヒト化モノクローナル抗体	治験実施地域: フランス
第Ⅰ相	KLH-2109	創製品	子宮内膜症、子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト	
	PA2I	導入品/ビフォーファーマ (スイス)	透折時高リン血症	リン吸着作用	

※1：ピグアナイド系薬剤、DPP-4阻害剤との併用療法

● 導出

(平成23年5月現在)

開発段階	一般名/開発番号	提携企業	権利地域	予想される適応症	主な作用等
承認申請中	ミチグリニド (mitiglinide)	エーザイ (日本)	アセアン (10ヵ国) ※1	2型糖尿病	速効・短時間型インスリン分泌 促進作用
	シロドシン (silodosin)	第一三共 (日本) エーザイ (日本)	中国 アセアン (10ヵ国) ※2、 インド、スリランカ	前立腺肥大症に伴う排尿障害	α1A受容体拮抗作用
第Ⅲ相	ミチグリニド (mitiglinide)	USV (インド)	インド	2型糖尿病	速効・短時間型インスリン分泌 促進作用
第Ⅱ相	ベドラドリン (bedradrine)	メディシノバ (アメリカ)	日本を除く全世界	喘息の急性発作、切迫早産	β2受容体刺激作用
第Ⅰ相	KGA-3235	大日本住友製薬 (日本) グラクソ・スミスクライン (イギリス)	日本 欧米他	2型糖尿病	SGLT1阻害作用
	ベドラドリン (bedradrine)	メディシノバ (アメリカ)	日本を除く全世界	COPD	β2受容体刺激作用

※1：承認：フィリピン、タイ/申請中：2ヵ国/申請準備中：5ヵ国

※2：申請中：アセアン1ヵ国

トピックス

新中期経営計画「CORE3」スタート

平成23年4月より、計画期間を3ヵ年とする新中期経営計画「CORE3」をスタートさせました。当社は創業研究開発型企業を志向しており、以下の基本方針の下に、収益力を高め、戦略的な研究開発パイプラインを構築し、継続的に新薬を創出する体制を確立することを目指しています。

- ①プロモーション強化、ライフサイクルマネジメントの推進により、新薬（ユリーフ、グルファスト、グルベス、エポエチナルファBS、サラジェン）を育成し、国内医療用医薬品市場における収益力を高める。
- ②パートナーとの連携の下に、欧米市場並びに新興市場における発売国数、売上高を拡大する。
- ③重点領域並びにアンメットメディカルニーズ（未充足の医療ニーズ）領域における研究開発・ライセンスインを活発化させ、次代の成長を支える研究開発パイプラインを構築する。
- ④会社構成員が夢や働き甲斐を感じ、自己実現のために努力する風土を醸成するとともに、ステークホルダーとの良好な関係の維持、社会規範の遵守に努める。

新発売



平成23年3月に、国内初のたんぱく調整・減塩の本醸造しょうゆ「減塩げんたしょうゆ」を新発売いたしました。

当社は、慢性腎不全の患者さんなど低たんぱく食事療法が必要な方向けに、主食や惣菜をはじめとしたたんぱく質調整食品を開発・販売しています。

この「減塩げんたしょうゆ」は、たんぱく質と塩分をこいくちしょうゆの1/2以下に減量した国内初の本醸造しょうゆです。更に、カリウムとリンもそれぞれ1/14、1/4に調整しました。

現在、たんぱく質を調整したしょうゆ加工調味料が販売されておりますが、これはしょうゆの旨み成分であるたんぱく質を減量することにより損なわれる風味をだし（汁）を加えることで補った製品です。一方、「減塩げんたしょうゆ」は本醸造による製造にこだわり、だし（汁）を加えることなく、しょうゆ本来の美味しさ（旨み、香り、コク、風味）を実現した、本醸造しょうゆです。減塩しょうゆは既に一般の市場にも数多くありますが、たんぱく質も調整したしょうゆとしては国内初となります。

腎臓病や糖尿病などで腎機能が低下して食事療法を行う場合、十分なエネルギーを確保したうえでたんぱく質の摂取を制限する必要があります。従来の調味料に比べ、素材の味、しょうゆの風味

を生かすことができる「減塩げんたしょうゆ」を味付けの基本としてお使いいただくことで、料理の幅が広がり、食事療法を継続いただくことができるものと考えております。

お問い合わせ先：ヘルスケア事業部
お客様相談センター：0120-515-260

財務諸表（連結）

●連結貸借対照表

(単位：百万円)

期 別	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)	期 別	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
科 目			科 目		
(資産の部)			(負債の部)		
流 動 資 産	85,639	89,851	流 動 負 債	16,114	15,907
現金及び預金	22,644	23,115	支払手形及び買掛金	5,623	5,228
受取手形及び売掛金	22,062	23,012	短期借入金	2,213	2,325
有価証券	26,097	27,500	未払法人税等	2,300	1,104
商品及び製品	4,818	5,280	賞与引当金	2,045	2,127
仕掛品	270	1,517	役員賞与引当金	29	25
原材料及び貯蔵品	3,441	4,212	返品調整引当金	62	68
繰延税金資産	2,412	2,327	売上割戻引当金	425	462
その他	3,905	2,900	販売費引当金	182	238
貸倒引当金	△13	△17	その他	3,230	4,326
固 定 資 産	61,382	56,396	固 定 負 債	6,686	6,409
有形固定資産	27,827	27,096	長期借入金	1,294	1,768
建物及び構築物	12,154	11,619	繰延税金負債	168	—
土地	13,368	13,367	退職給付引当金	3,719	3,830
建設仮勘定	23	72	役員退職慰労引当金	115	118
その他	2,281	2,037	資産除去債務	—	114
無形固定資産	1,810	1,378	その他	1,389	578
投資その他の資産	31,744	27,922	負 債 合 計	22,801	22,316
投資有価証券	29,610	24,434	(純資産の部)		
長期貸付金	377	157	株 主 資 本	119,857	122,067
長期前払費用	64	28	資 本 金	24,356	24,356
繰延税金資産	405	2,171	資 本 剰 余 金	24,254	24,254
その他	1,332	1,178	利 益 剰 余 金	75,582	77,796
貸倒引当金	△45	△47	自 己 株 式	△4,336	△4,339
資 産 合 計	147,022	146,248	その他の包括利益累計額	4,182	1,678
			その他有価証券評価差額金	4,182	1,678
			少数株主持分	181	186
			純 資 産 合 計	124,221	123,932
			負 債 純 資 産 合 計	147,022	146,248

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●連結損益計算書

(単位：百万円)

期 別	前連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
科 目		
売 上 高	62,178	64,393
売 上 原 価	21,759	22,498
売 上 総 利 益	40,419	41,895
販売費及び一般管理費	33,834	35,432
営 業 利 益	6,584	6,463
営 業 外 収 益	967	781
営 業 外 費 用	331	308
経 常 利 益	7,221	6,936
特 別 利 益	77	533
特 別 損 失	682	1,137
税金等調整前当期純利益	6,616	6,332
法人税、住民税及び事業税	2,783	2,416
法人税等調整額	△553	△92
少数株主損益調整前当期純利益	—	4,009
少 数 株 主 利 益	15	4
当 期 純 利 益	4,371	4,004

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●連結株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	その他の包括 利益累計額合計		
平成22年3月31日残高	24,356	24,254	75,582	△4,336	119,857	4,182	4,182	181	124,221
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当	—	—	△1,791	—	△1,791	—	—	—	△1,791
当期純利益	—	—	4,004	—	4,004	—	—	—	4,004
自己株式の取得	—	—	—	△3	△3	—	—	—	△3
自己株式の処分	—	0	—	0	0	—	—	—	0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△2,503	△2,503	4	△2,499
連結会計年度中の変動額合計	—	0	2,213	△3	2,210	△2,503	△2,503	4	△288
平成23年3月31日残高	24,356	24,254	77,796	△4,339	122,067	1,678	1,678	186	123,932

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

期 別	前連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
科 目		
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,695	4,688
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,040	△1,941
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,603	△1,271
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△3
現金及び現金同等物の増減額	6,048	1,472
現金及び現金同等物の期首残高	42,613	48,681
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	18	—
現金及び現金同等物の期末残高	48,681	50,153

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表（個別）

●貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	
	前事業年度 (平成22年3月31日現在)	当事業年度 (平成23年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	81,785	85,415
固定資産	59,748	54,705
有形固定資産	26,836	26,009
無形固定資産	1,605	1,269
投資その他の資産	31,305	27,427
資産合計	141,533	140,121
(負債の部)		
流動負債	12,315	11,550
固定負債	5,575	5,419
負債合計	17,891	16,970
(純資産の部)		
株主資本	119,458	121,470
資本金	24,356	24,356
資本剰余金	24,254	24,254
利益剰余金	75,183	77,199
自己株式	△4,336	△4,339
評価・換算差額等	4,184	1,680
純資産合計	123,642	123,151
負債純資産合計	141,533	140,121

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成22年3月31日残高	24,356	24,254	75,183	△4,336	119,458	4,184	4,184	123,642
事業年度中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△1,791	—	△1,791	—	—	△1,791
当期純利益	—	—	3,806	—	3,806	—	—	3,806
自己株式の取得	—	—	—	△3	△3	—	—	△3
自己株式の処分	—	0	—	0	0	—	—	0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△2,503	△2,503	△2,503
事業年度中の変動額合計	—	0	2,015	△3	2,012	△2,503	△2,503	△491
平成23年3月31日残高	24,356	24,254	77,199	△4,339	121,470	1,680	1,680	123,151

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	
	前事業年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	当事業年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	53,709	55,356
売上原価	15,183	15,358
売上総利益	38,525	39,997
販売費及び一般管理費	32,425	33,777
営業利益	6,100	6,220
営業外収益	1,051	888
営業外費用	391	385
経常利益	6,759	6,724
特別利益	77	530
特別損失	620	1,204
税引前当期純利益	6,216	6,049
法人税、住民税及び事業税	2,570	2,315
法人税等調整額	△495	△71
当期純利益	4,141	3,806

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

製商品の紹介

●主な医療用医薬品

●その他代謝用薬

グルファスト錠 糖尿病治療薬
エポエチンアルファBS注JCR 腎性貧血治療薬

●神経系用薬

カバサール錠 パーキンソン病治療薬

●感覚器用薬

リザベン点眼液 アレルギー性結膜炎治療薬
リズモンTG点眼液 緑内障・高眼圧症治療薬

●循環器用薬

ベザトールSR錠 高脂血症治療薬
キサンボン注 脳循環改善薬

●消化器用薬

サラジェン錠 口腔乾燥症状改善薬
ガスコン 消化管内ガス駆除薬
アラント 胃・十二指腸潰瘍治療薬

●ホルモン・泌尿生殖・血液体液用薬

ユリーフ錠 排尿障害改善薬
ウテメリン 切迫流・早産治療薬
フラグミン静注 血液凝固阻止剤
ゾラデックス1.8mgデポ 子宮内膜症治療薬
フルスタン錠 活性化型ビタミンD₃製剤

●アレルギー用薬

リザベン アレルギー性疾患治療薬
ドメナン錠 気管支喘息治療薬

●主なヘルスケア食品

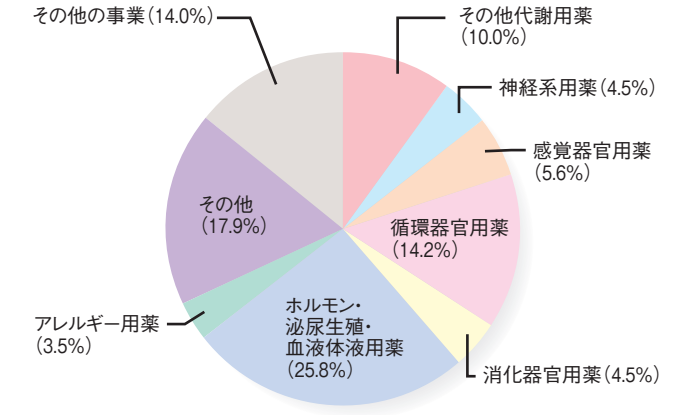
●介護・高齢者向け食品

新スルーキング i・・・お茶やジュース等の飲み物や食品の種類及び温度に関係なく、安定したとろみがつけられるとろみ調整食品です。無色でにおいも味もなく、食品の風味を損ないません。

スルーパートナー・・・液状食品やミキサー食を見た目においしそうに食べやすいゼリー食にできる介護食調整用食品です。いろいろな食品を風味や色を変えずに固めることができ、冷たいままでも温めてもおいしく召し上がれます。

やわらかカップ・・・テリーヌ風においしくとろけるようなやわらかさに仕上げました。調理済みのため加熱の必要はなく、開けてそのまま召し上がれます。いとより鯛、かに風味、ほたて風味、いわし、うなぎ、ポークしょうが焼があり、たんぱく質7gのぶり大根風味、さばの味噌煮もあります。また栄養強化タイプとして、カレー風味、ビーフシチュー風味、エビチリ風味の3種があります。

●連結売上高比率 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)



●エネルギー補給食品

カップアガロリー・・・1食で150kcalのエネルギー、100mgのカルシウムが補給できるゼリーです。味の種類は、オレンジ、ウメ、カリン、マスカット、リンゴ、モモ、ストロベリー、ブルーベリーがあります。

マクトンシリーズ・・・効率的に体内に吸収されエネルギーとなる中鎖脂肪酸を用いたエネルギー補給食品です。手軽に召し上がれるビスキーなどのほか、様々な料理にお使いいただけるオイル、パウダーもあります。

●たんぱく質調整食品

ゆめごはん・・・たんぱく質、リン、カリウムを抑えたおいしいパック入りごはんです。温めるだけで手軽にお召し上がりいただけます。

げんたうどん・そば・そうめん・・・たんぱく質、リン、カリウムを抑えたおいしい乾麺です。

株式の状況

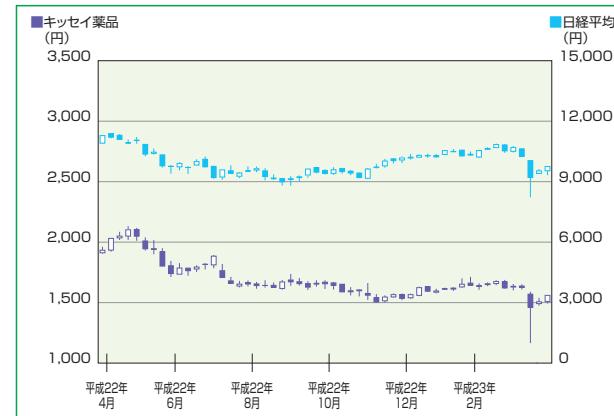
発行可能株式総数 227,000,000株
 発行済株式の総数 56,911,185株
 株主数 4,086名 (前期末比増減 926名増)

●大株主

株主名	持株数	持株比率
第一生命保険株式会社	34,180百株	6.3%
有限会社カンザワ	31,782	5.9
神澤邦雄	27,030	5.0
株式会社八十二銀行	26,709	4.9
株式会社みずほ銀行	26,706	4.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,141	4.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	21,020	3.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,535	3.8
資産管理サービス信託銀行(年金信託口)	16,190	3.0
神澤陸雄	15,082	2.8

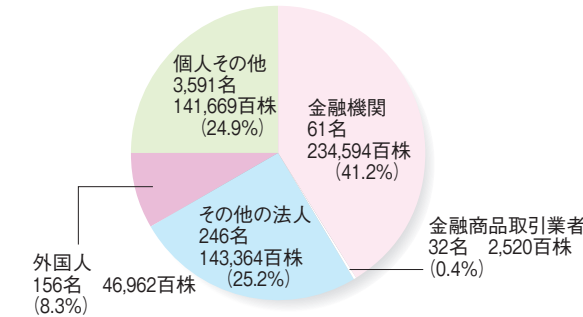
(注) 1. 当社は自己株式26,375百株を保有しておりますが上記大株主には記載していません。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

●株価チャート

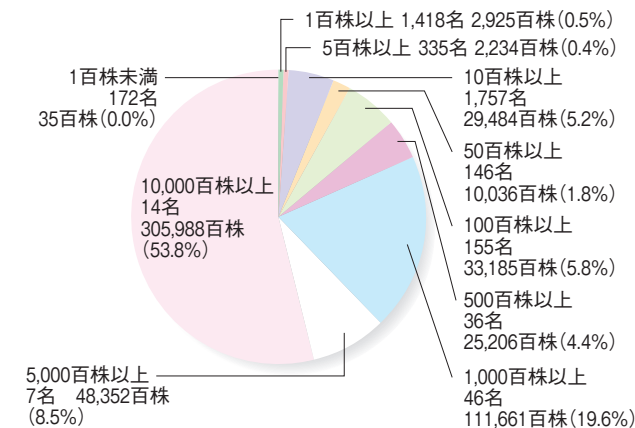


(平成23年 3月31日現在)

●所有者別分布



●所有株数別分布



会社の概要

社名 キッセイ薬品工業株式会社
 英文名称 KISSEI PHARMACEUTICAL CO., LTD.
 設立 昭和21年 8月 9日
 資本金 24,356,653,478円
 主要事業内容 医療用医薬品の製造販売
 本社 長野県松本市芳野19番48号
 電話 (0263) 25-9081 〒399-8710
 東京本社 東京都中央区日本橋室町一丁目 8番 9号
 電話 (03) 3279-2761 〒103-0022
 東京本社(小石川) 東京都文京区小石川三丁目 1番 3号
 支店 札幌支店、仙台支店、関越支店(さいたま市)、東京支店、横浜支店、松本支店、名古屋支店、京都支店、大阪支店、高松支店、広島支店、福岡支店
 (注)支店の下に41営業所を設置しております。
 工場 松本工場、塩尻工場(物流センター含む)
 研究所 中央研究所・第二研究所・製剤研究所(長野県安曇野市) 上越化学研究所(新潟県上越市) ヘルスケア事業センター(長野県塩尻市)

従業員数 1,571名

(平成23年 3月31日現在)

代表取締役社長 神澤陸雄
 取締役副社長 味澤幸一郎
 専務取締役 柳澤圭一郎
 専務取締役 降旗征一郎
 常務取締役 足立寿喜夫
 常務取締役 赤羽増夫
 取締役 御子柴今雄
 取締役 佐藤公衛
 取締役 柴田信男
 取締役 両角正樹
 取締役 中田安紀
 取締役 降旗喜康
 取締役 大森弘幸
 取締役 伊佐治正哲
 取締役 矢花嘉夫
 取締役 久保澤信潔
 取締役 熊澤野紘

ホームページのご案内

タイムリーな情報をホームページで提供しています。



URL : <http://www.kissei.co.jp/>

アニュアルレポート

ホームページ(English Page)にも掲載しています。



CSR報告書

環境やCSRの取り組みを「CSR報告書」としてまとめています。



資料請求のご連絡先: 広報部 TEL: 0263-25-9523 (土・日・祝日、当社休日を除く月～金 8:40～17:20)